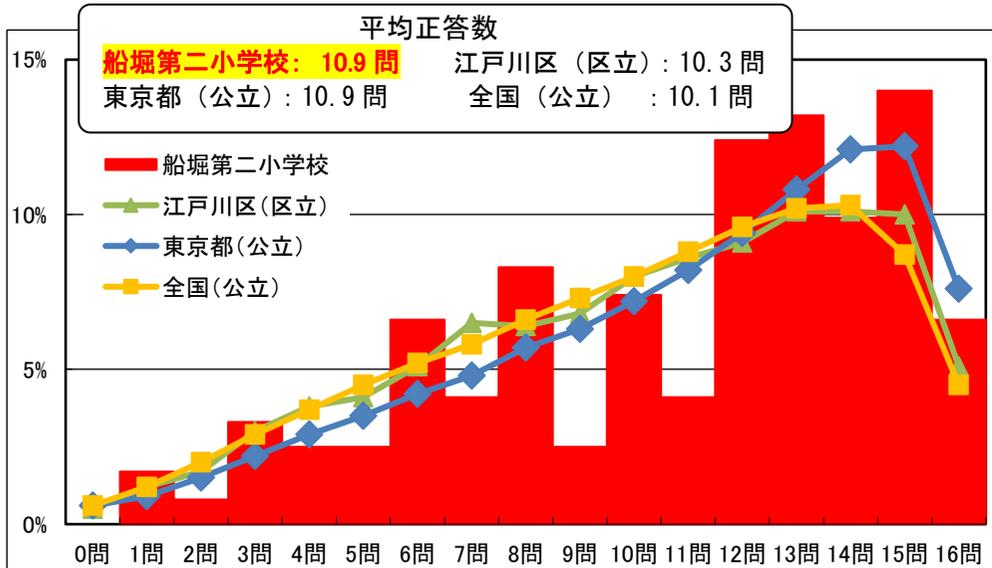


令和6年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【算数】 船堀第二小学校

正答数分布



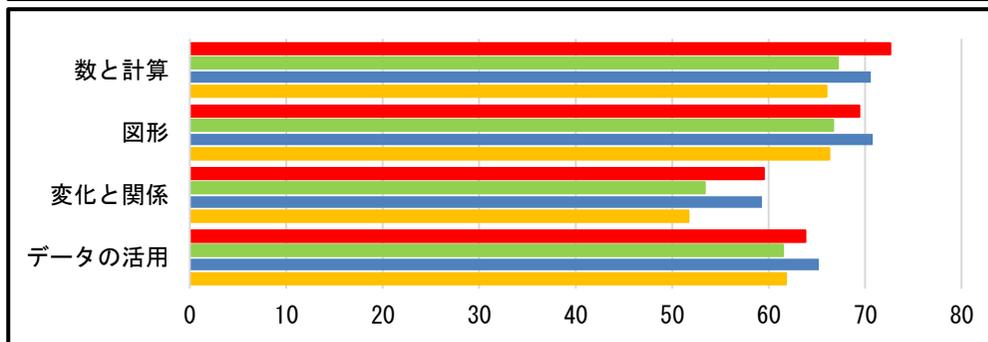
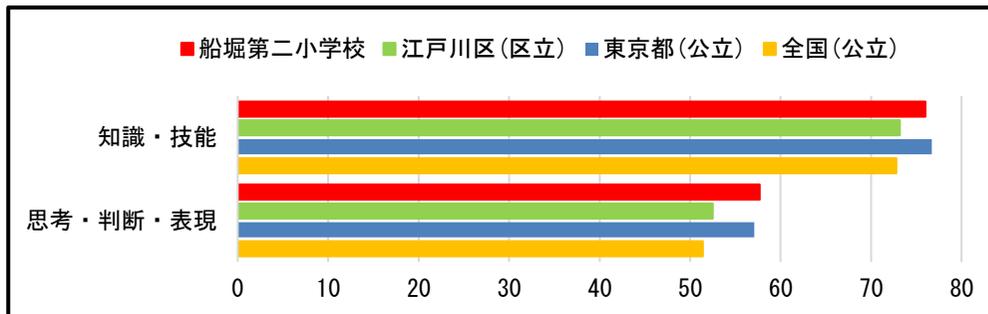
<四分位における割合(都全体の四分位による)>

算数	上位 ←		→ 下位	
	A層 14~16問	B層 12~13問	C層 8~11問	D層 0~7問
船堀第二小学校	30.5	25.6	22.3	21.5
江戸川区(区立)	25.2	19.2	29.8	25.8
東京都(公立)	31.9	20.2	27.4	20.5
全国(公立)	23.5	19.8	30.7	26.0

%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

「領域別」の結果



【分析結果と授業改善に向けて】

正答数が都平均以下であったのは、主に

「球の直径の長さと同立方体の1辺の長さの関係をつまみ、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうか」

「道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由や言葉や数を用いて記述できるかどうか」

「折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうか」をみる問題であった。

このことから、複数の事象や要素を理解し、表やグラフから適切なデータを見抜いて考察したり、言葉や数を用いて説明したりする力に課題があると考えられる。また、四分位におけるC、D層の底上げをしていくことも大きな課題である。

こうした課題に向けて、習得した知識・技能を活用し、問題解決の過程を説明したり表現したりする授業改善を行う必要がある。複数の情報を処理する力を付けるために、算数で学習した内容を理科の考察や社会科の調査活動、国語科の読解などでも生かし、教科横断的に思考力・判断力・表現力を育てていく。こうした土台には、基礎・基本の確実な定着が必要である。児童の習熟度に合った課題設定を行うこと、適用問題や振り返りを丁寧に行うことなどを通して、算数少数授業の一層の充実を図り、低・中学年期の学習の積み残しがないようにする。

【平均正答率の差】

船堀第二小学校	68%
江戸川区(区立)	64%
東京都(公立)	68%
全国(公立)	63.4%
都との差	0ポイント